

長野市おひざで絵本事業 絵本選定委員会 会議要旨

【日 時】 令和3年8月24日（火） 午前10時から午前11時半まで

【場 所】 市役所第一庁舎4階 教育委員会室

【出席者】 委 員 飯田茂委員 稲富裕子委員 西澤美恵子委員  
原田國子委員 原田裕香委員 柳沢安江委員

事務局 樋口圭一教育次長

小池秀一家庭・地域学びの課長

宮崎綾美家庭・地域学びの課係長

湯本美翔家庭・地域学びの課主事

芹沢広美南部図書館司書

【主な内容】

協議事項

(1) おひざで絵本事業について

～事務局より説明～

(質問・意見無し)

(2) 絵本の選定について

～事務局より説明～

(委 員 長) 事務局説明に対して、ご質問、ご意見はございますか。

(質問・意見無し)

(委 員 長) 事務局からの説明で、長年選ばれている3冊について、検討をお願いしたいということもありましたので、この3冊をどうするかも含めて話を進めていきたいと思います。よろしいでしょうか。

(委 員) 選定の基準として、ボランティアの負担を考慮して、変更の場合は1～2冊ということでしたが、昨年からコロナの影響もあり、ボランティアに読み聞かせをしていただきながら絵本を選ぶということが可能性として少ないということであれば、市として今後どのように配布方法を変えていこうと思われているのか、お聞かせいただきたいと思います。本は、人から人へと渡したいものだ、私は思っています。人から人に愛情を持って伝えるというのが、小さいお子さんにとっては特に大事なことだと思っていますので、去年、今年にかけては受付で配布するというので、致し方ない部分があるとは思いますが、来年になれば大丈夫ということではないと思いますので、そ

- このところをどうお考えか聞かせていただきたいと思います。それによつては、絵本の選定の基準を変えなければいけないというところもあります。
- (委員) おはなしポケットという団体が読み聞かせのボランティアをやっています。昨年からコロナの影響で読み聞かせができておらず、勉強会も2～3回やっただけという状況です。
- (委員長) コロナ禍という特殊な状況で、実際には読み聞かせの活動ができないという中で本の選定になること、それにも関わって、本の冊数の問題と、実際に渡す場合に機械的にやるのではなく、直接人から人へ渡すような活動を行うことが大事だというお話をいただきました。事務局から選定の基準を示していただきましたが、このところの情勢を含めて何かあればお願いします。
- (事務局) 7～8か月児健康教室の時間短縮での開催は、やはり先が見えない状況だということを保健所に確認しています。読み聞かせについては、早急に再開したいと考えておりますが、なかなか難しいというのが現状です。現場では、受付での一方的な配布にはなってしまいますが、配布を担当している書店の方や保健師が、「どれが人気ですか」「これはどんな本ですか」といった保護者の方の質問に応じています。学びの課としても、この状況が続いていくということになれば、対応を検討していきたいと考えています。選定の基準については、赤ちゃんの立場に立った絵本を選定していただくということで、資料に記載してあるところでお願いしたいと思います。
- (委員長) 事務局としては、選定の基準に基づいてやっていくが、状況を見ながら必要な対応についても考えていくこと、今回については5冊のうち1～2冊の選定としますが、こういった状況もあるので、5冊すべて変更なしということもあり得るということでしょうか。
- (事務局) はい。
- (委員) 小学校入学時にいただける記念樹があります。これは、(引換)券を渡して、金額の範囲内で、あるいは自分で金額を上乗せして、木をもらいにいくというものですが、こういう方法はこの中でできないのでしょうか。
- (委員長) 今すぐに回答できるものではないと思いますので、今回はこういう意見があったということをお願いしたいと思います。それでは、選定に入っていきたいと思います。まず、推薦絵本について皆さんに出していただいていますので、それをご紹介いただきたいと思います。その次に、先ほど事務局からも説明がありましたが、長年選ばれてきた3冊について話題にしたいと思います。そして、3冊の中で入れ替えるとすれば、どれを加えてどれを外すかということがあります。残りの2冊をどうするかも含めて、5冊の配布絵本を決めるということを進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

それでは、推薦絵本一覧を見ていただき、推薦する絵本とその理由について簡単にご説明いただきたいと思います。

- (委員長) 私が選んだのは、「かおかおどんなかお」です。今回絵本を選ぶにあたって考えたのは、年齢についてです。1歳未満のお子さんに良いのは何かという、去年とは違うスタンスで考えてみました。おひざで抱っこされながら、それをお子さんと一緒にすごく近いところで読んで聞かせるという状況を考えてときに、単純で近くに行けば見られるようなものが良いと考えました。シンプルだが表情の違いがわかりやすいのが推薦の理由です。入れ替える絵本は、「ぼんちんぱん」を選びました。リズムカルでテンポの良い「ぼんちんぱん」ですが、ゆっくりめくって楽しむ良さを体験してもらいたいということでこの本を推薦しました。
- (委員) 私自身、毎月5か所で子育て支援の読み聞かせとわらべうたをやっているのですが、どこの場所に行っても、子どもたちが食いついてきてくれるということが1番の理由です。また、乗り物関係の本をもう1冊入れたいと思っているので、「ぶーぶーじどうしゃ」を推薦しました。山本さんの絵は実物に近いということと、6か月くらいの赤ちゃんであれば、擬音を出しながら目を向けてくれますし、3歳くらいのお子さんになれば「ブーブー」と言うなど、保護者の方にお聞きしたところ「いつも好きだ」と言ってくれる本だったので、この本が良いと思いました。「ぼんちんぱん」との入れ替えを考えていて、写真絵本よりも人間が書いた、隅々まで思いのこもった絵を子どもに与えたいというのが大きな理由です。
- (委員) 私は、絵本を入れ替えるということにすごく悩みました。長年選ばれている3冊は、本当に良い絵本ですが、兄弟がいる場合は、もう持っていて選べないという声もあります。真島保健センターで赤ちゃんの読み聞かせに携わっているのですが、そんな声もお聞きする中で、「いないいないばあ」は親と子の遊びとしては最高のものであるし、児童心理学の中でもすごく大事な遊びということで、ぜひ入れたい本ではあります。いろいろな「いないいないばあ」の本がありますが、私たちのグループでも1冊1冊検討したことがあります。古いけれどこれ以上の「いないいないばあ」はないということで、これは外せないと思っています。「くだもの」も、保護者の方が「すごく身近だ」と言って喜んで見ていて、部屋に置いておくと「ほっとできる」というような使い方をされている方もいて、良いのかなと思います。「がたんごとんがたんごとん」は、長年保育をしている中で子どもたちが、3歳くらいになってもおもちゃを作って、「がたんごとんがたんごとん」と楽しく遊んでいる姿を見ると外したくないですが、3冊の中で1冊くらいは変えていかないと、保護者の方も選べないのかなと思いました。乗り物絵本をど

うしても選びたいということで、私たちのグループでもリストを作って、半年くらい図書館や書店を探しました。ですが、私たちが行き当たるものがありませんでした。「ぶーぶーじどうしゃ」は、私たちのグループで作っているリストにもお薦めとして入っています。本当に素晴らしい絵本ですが、ある時、「自動車は年々変わるので、少し大きくなった時に実際には走っていないかもしれない」という若い保護者の方の声がありました。食べ物や自然は変わらないですが、洋服のデザインや車のデザインはどんどん変わっていくとすると、新しいものを入れてもいいのかなということで「あっ」を選びました。軽い感じで楽しめるので、私のいつものスタンスとは違うところで選びました。本当はあまり変更したくないですが、3冊の中で1冊くらいは変えていかなければいけないということ、悩みながら決めさせていただきました。

(委員) 「絵本の選定について」の「色彩や線がはっきりした絵本」というところに惹かれて、この本に出てくるカラフルなところが、赤ちゃんに見やすい、伝わりやすいと思って「だっだあー」を選びました。表情や言葉がとてもおもしろいので、これを保護者の方も一緒に、声を出しながら表情を変えながら読んで、子どもたちに読み聞かせができるということが触れ合いになって良いのではないかと考えました。以前から配布している絵本はどれも良い本だと思いますが、昨年も「いないいないばあ」が変更の候補になったこともあり、数だけ見ると配布冊数が少ないということと、「前の時にもらった」という意見も多いと思いますので、「いないいないばあ」との変更を考えました。

(委員) あかちゃんに向き合うと、まず何をやるかということ「いないいないばあ」。ちょっと向こうに行くときに「じゃあね、ばいばい」と絶対に言うくらいの言葉だと思います。一番言いやすい言葉でたっぷりと遊んであげるのが一番良いと思って、「ばいばい」を選びました。入れ替えとしては、「がたんごとんがたんごとん」か「ぼんちんぱん」だと思ったのですが、理由は「ばいばい」も同じ言葉遊びだからです。もう一つ、「でんしゃくるかな？」という本も「ばいばい」が入っています。これも非常に、「ばいばい」で遊ぶには遊べる本なのかなと思います。

(委員長) 次に、事務局から説明のあった長年選ばれてきた3冊「いないいないばあ」「がたんごとんがたんごとん」(平成21年度から)、「くだもの」(平成24年度から)は、いずれもロングセラーということで、一度ここで検討する機会を設けて、絵本の選定について考えるというのは意義のあることだと私も考えます。委員の皆さんにアンケートを書かせていただきましたが、変更するあるいは変更しなくても良い、それぞれ意見があると思います。ここでお考

えをお聞かせいただきたいと思います。

- (委員) 長年選ばれてきたということは、選ばれてきた理由があると思います。私たちも含めて、伝えていただく方々にも理解していただかなければいけないなと思いました。なぜ、この本が長年選ばれてきたのかということをもう一度ここで確認したいと思います。私は、この3冊はロングセラーでベストセラーだと思っています。実際に、5か所の読み聞かせの場所で1年間、毎月1回やるのですが、この3冊は必ずどこかで読み聞かせをしています。今回事前配布いただいたリストの本などを集めてきて、ほぼ全部子どもたちに読み聞かせをしてみました。実感として、やはりこの3冊は、大人にはわからない子どもだけの感性で感じ取ってくれるものがあるということを確認しました。「くだもの」に関しては、くだものを「どうぞ」とやると、口を「あーん」と開けて「もぐもぐ」とする姿を見た時に、私はマスクをしながらやっているのですが、こんなに状況が変わってお口もあまり見たことがないこの子たちが、20年前南部図書館の子育て支援で読み聞かせをやらせてもらったときの子どもたちの反応と全く同じだということに、実は大変驚きました。そのあと、ハンカチでバナナを作って「さあどうぞ」と口に持って行ったのですが、それは口が開かないのです。やはり絵のすばらしさが子どもたちに届いているのではないかと私は思いました。長年愛されてきたものについて、私たちが勧める理由をきっちりとしていないと、時々の流れによって私たち大人がぶれてしまっているのではないかと強く感じました。アンケートを見ても、本の良さを率直に感じ取ってもらえているのが良くわかって、この本がとても良いのだということをもっと大々的にアピールする、思いを伝えてこそブックスタートになって、子どもが本を好きになる一番の要素があるのではないかと私は思います。DVDを流すとかチューブで流すとか、何かの方法で、この絵本の素晴らしさを伝えてこそだと思うので、よろしくをお願いします。例えば、この3冊は不動のものにして、他の2冊を定期的に変えていくという方法もあると思います。「いないいないばあ」の松谷みよこさんは、山ノ内町に疎開し、長野でたくさん再話されて、昔話の絵本にされているということもあって、とても長野に近いと思います。瀬川康男さんも、いわさきちひろさんととても親交があった方ですので、それも長野らしい絵本だなと思っています。「くだもの」の平山和子さんは、黒姫で執筆活動をされていたので、私は皆さんに「このくだものは、長野県産のくだものだと思うよ」と言っています。長野を愛する子どもたちを、という目線からも、「いないいないばあ」と「くだもの」は外せないと思っています。

- (委員長) 今の意見は、3冊の絵本の良さ、特に「くだもの」の良さについて触れてい

ただいたと思います。他の委員のみなさんはいかがでしょう。

- (委員) 「くだもの」は、園でも子どもたちが好きで、絵本のところに並んでいると読んでほしいと持ってきてくれます。開くと本当にそのままのくだものが出てくるので、子どもたちと一緒に口に入れたり、どれが好き？と言いながら読んだりしています。すごく魅力的な本だというのは私自身も感じていたところに、今お話をいただいて、すごくわかるなと感じました。私は、「いないいないばあ」を交換したほうが良いと思っていましたが、実際のところ、配布冊数に囚われすぎていて、少ない=人気がないというイメージがあったり、兄弟でかぶってしまっていたりという部分で、選ばれにくいのではないかということを感じていましたが、お話をお聞きして、3冊を不動にするというのがすごくいいなと感じました。3冊どれも、若い保護者の方に伝えていきたい本でもあるので、ニーズに合わない本だからということではなく、読んでほしいということを強く伝えていけたらと思いました。
- (委員長) 配布冊数=人気がないではなく、兄弟でかぶってしまうなどいろいろな状況があると思います。その中で何を選定するのかというのは、新しいものが良いというだけではなく、ロングセラーの中に何か必ず意味があるということ踏まえた上で、選ぶかどうかということで、大事なことを言っていたような気がします。
- (委員) 基本的には3冊継続してほしい本だと思っています。私も「くだもの」が大好きで、平山さんのお宅にもよくお邪魔してお話しさせていただきました。保護者の方たちに読み聞かせの時に見せると、「写真じゃないのですか？」とまず感激の聲が挙がります。
- (委員) 去年は、「いないいないばあ」はいつでも言葉に出して言えるものだから、はずしてもいいのではないかと考えていました。でも、今になっているんな本を読んだり、いろんな方のお話を聞いたりしてもう一度考えてみると、「いないいないばあ」は親と子どもがうんと遊べる本で、うんと遊んで、「楽しい」ということが、後々絵本が好きになるということを思うと、どうにも外せないと思いました。アンケートを見ていると、「上の子でもらったから」という意見も多いですが、「いないいないばあ」を今まで残してきたというのは、上の子が読んでいたからというのではなくて、その子にあげる絵本だからということで残してあるので、「いないいないばあ」はやはり外せないと思います。
- (委員) 私の家にもありますが、最初に見る絵本が「いないいないばあ」だと思っています。長年選ばれているというのは、必要なのではないかと思います。
- (委員長) 委員の皆さんは、3冊は非常に重要だというお考えだと理解します。私も改めて見てみましたが、絵の良さ、音や声掛けの良さ、それと必ず物語性がある

る、それぞれが独特ですが、なかなか簡単に他の絵本とはならないなと思いました。例えば、「くだもの」も他にたくさん絵本があるだろうし、くだものは大事だからという観点で見ましたが、なかなか無いです。「いないいないばあ」もずいぶん前に発行された絵本ですが、言葉と絵の良さがなかなか出せないのではないかと思います。「がたんごとんがたんごとん」は、「がたんごとん」と「のせてください」の言葉の掛け合いがすごく良くて、絵も良いなと感じました。3冊については慎重にやっていくことが大事だということで、意見をまとめさせていただきたいと思います。

(委員長) 推薦する絵本を出していただいて、長年選ばれてきた3冊について話をしました。これで、配布絵本をどうするかについてですが、1つは5冊このままでいくという考えがあります。変更するといった場合に、3冊のどれかを外して入れ替えるということは、今の皆さんの意見の方向性からすると、この変更はないのかなと思います。3冊以外の「ぼんちんぱん」「もうおきるかな？」と入れ替えるということになると、「もうおきるかな？」は、昨年変更したばかりなので、「ぼんちんぱん」も新しいですが、これをどうするかということになるかと思います。

(委員) 「ぼんちんぱん」が今のところ人気ですよ。確かに、言葉で遊べることには遊べる本で、とっても楽しいですよ。

(委員) 読み聞かせの時も、『ぼんちんぱん』を選びました」という保護者の方が多いです。「決め手は？」と聞くと、やはり「言葉がおもしろいから」と言っていて、保護者の方がおもしろいと感じたからというのが選ぶ理由になっているということがわかりました。いつも、入り口を広くして絵本の世界に招き入れるべきなのか、保護者の方に、子どもがどんなものに一番興味を持っているかということを考えて選んでほしいということを引きつらお伝えすべきか迷うところです。1歳半と3歳のお子さんは、「ぼんちんぱん」を選んだが、今はあまり手に取らないということでした。リズム的にはとても良く、保育園や幼稚園で、みんなで楽しむには最高の絵本だなと思うのですが、長野市はセカンドスタートが無いので、貴重な税金を使って配布をするのであれば、もう少し、子どもたちがせめて小学校に上がるくらいまで見ることができる本でもいいのかなと、その時に保護者の方たちの声を聞いて思いました。先ほど南部図書館の説明で、年齢によって読む絵本は変えていかなければいけないというお話がありました。私も同じ意見ですが、ずっと楽しめる絵本もその中にはあると思っているので、できれば長野の子どもたちが良く育つようにという集大成の絵本であれば、少しでも子どもたちの心に留まるような絵本をリストとしてあげるのが私たちの務めなのだと感じました。とても難しいことですが、継承していかなければいけないこ

とだと思いました。

- (委員) 私もいつも思うことですが、ここで選ぶのはファーストブックであって、例えば、「家でどうやって読み聞かせをしたらいいのかわからない」という保護者の方のために選ぶとしたら、期間が短くなってしまいますが、その時に保護者の方と子どもが遊べる絵本を選んであげることも大事だなと思います。
- (委員) 良い本を選んでも、食いつかなかったらどうするのかという話になって、いつも結論が出ないままになってしまいます。
- (委員) 本はきっかけであって、今食いついた本でもいいと思います。本は図書館で借りることもできるので、本当に本が好きの子、図書館で本を借りる子に成長するためには、まず本に食いつかせることが目的なのではないかと思います。
- (委員) 並んでいる本をぱっと見た時に、惹かれるのはこの本だなというのはわかりますが、それは内容までいかず、外側を見た時だけで、リズムなどに読みやすさを感じたり、見た目が入ったりしているのではないかと思います。アンケートでも、「絵がかわいかったから」というところから入るとすると、人気の本なのかと思いますが、不動の3冊に比べると、長く伝えていきたいかという、その部分では変えても残してもどちらでも良いと思います。
- (委員長) 皆さんから挙げていただいた5冊も、それぞれ推薦に挙げるだけの内容だと思います。絵も言葉もそうですが、特に「ぼんちんぼん」は、保護者の方も、これを見て「あ、いけるな」と、語りかけをするときも「これならできるな」ということで選ばれていると思います。でも、それはとても大事なことだと思います。今回、皆さんから挙げていただいた5冊もそうですが、私が推薦した本も、「かお」という単純なものを繰り返しやっています。「ぶーぶーじどうしゃ」でいうと「ぶーぶー」とか「びーぼー」という言葉が出てきて言葉を楽しむことができます。「あっ」は、「あっ〇〇」と、リズムがあるのだと思います。「だっだぁー」もおもしろい言葉の遊びが楽しめます。「ばいばい」も繰り返しで単純ですが、わかりやすく、見やすく、聞きやすい本です。いずれにしても、リズムがあっていいなと思います。その中でどれかを選定して、「ぼんちんぼん」に変えるかどうかということだと思いますが、まだ2年くらいの中なので、変えてでも他のものを入れるか、もう少し待つかということだと思いますが、いかがですか。(配布) 数が多いか少ないかは別に、私たちが選定するものは、良いものを伝えていくという立場があると思うのでそこを大事にしたいということはあると思います。一見古いようだが、見てみると味わいがある、そういう本を選定していくということだと思います。読み聞かせがコロナの関係で全然できず、「もうおきるかな？」



もまだできていないという中で、次にもう1つ変えるのはどうか、と思うのはそのとおりだと思います。

(委員) 配布絵本が変わると、50人以上いるボランティア全員に新たな本をまたいただくことになってしまいます。

(委員長) 読み聞かせ団体のいろいろな事情もありますが、基本的には保護者の方に見ていただいて、5冊の中から1冊を選んでいただき、親子で楽しんでいただくということだと思います。ただ、そういうこともあるということで、お話しいただいたことも大事にしたいと思います。先ほどから出ている、食いつきのいい本だったらいいのかというお話は、いかがでしょうか。

(委員) ここで推薦された絵本は、ぜひお薦め絵本リストで紹介していただきたいです。2歳以上向けというのがあるので、これを抜かして、今回の絵本を入れていただければもっとたくさん入るのではないのでしょうか。

(委員長) 選ばれなくても考慮していただいて、事務局で配置していただけるということですよ。

(事務局) はい。

(委員長) 年齢の部分については、専門の皆さんの考え方もあるので、いずれにしても配慮していただいているということによろしいでしょうか。

(事務局) はい。

(委員) 先ほど、今年は3冊を不動のものにして、2冊について変動していくということになったと思うのですが、「上の子がもらったから」というところを解消するのが、この2冊の部分で、保護者の方の意見を反映させていくということだと思います。例えば、「ぼんちんぱん」は、2年連続でベスト1ですが、もう1年やって3年間続いたら、上のお子さんでももらったという人が多く出てくると考えると、来年は「ぼんちんぱん」を変えるという考え方もあるのではないかと思います。この2冊を保護者の方の食いつきがいいもので考えていくということではなくて、結果的に多くのご家庭にこの本はあると考えると、下のお子さんが生まれた時に違う本が欲しいということになるので、「ぼんちんぱん」を変えて新しい本を入れてみるスタイルも取れると思います。3年間くらいは同じでも良いと思うので、ぜひ来年度の検討事項としてはどうでしょうか。1年間、読み聞かせで「ぼんちんぱん」を読んでみて、子どもたちの反応を直に感じて、資料としてお伝えすることはできると思います。昨年も、3冊については検討するということがあったと思います。

(委員長) 「ぼんちんぱん」は続けて、次年度の検討事項ということによろしいでしょうか。「いないいないばあ」「がたんごとんがたんごとん」「くだもの」の3冊は今回検討して、このまま継続ということにしたいと思います。残りの2

冊のうちの「ぼんちんぱん」についても検討はしましたが、人気もあるし、今後のことも含めて残して、来年につなげていくということによろしいでしょうか。

(一同賛成)

(委員長) 今回、5冊はそのまま選定ということにしたいと思います。

(3) その他

～事務局より説明～

(委員長) 事務局説明に対して、ご質問、ご意見はございますか。

(委員) お薦め絵本リストのキャプションに、私が子どもたちに読み聞かせをした実感として、載せていただければと思います。「だっだあー」は、子どもが下から大人を見た顔になっていて、子どもの目線で、粘土細工で作られているところが他の絵本とは違うところだと思います。「ばいばい」は、絵本に向かってみんなが「ばいばい」と言って、コミュニケーションがとれる絵本です。何よりも、「ばいばい」とやってくれる子どもたちを保護者の方が見て、とても嬉しそうな、幸せそうな顔をされているのが印象的でした。子どもが反応するということが、保護者の方にとって嬉しいことなのだと感じました。「かおかおどんなかお」は、読み聞かせにとっても良いと思います。(かおが書かれたおもちゃを見せて) 遊びの展開ができるという絵本だということ、一緒にご紹介していただければと思います。「あっ」は、長野の子どもたちは、船は若干反応が薄かったです。見たことがない乗り物もこの絵本で体感ができるという感じで、少しでも書いていただければ、保護者の方も選ぶ基準になるかと思います。

(事務局) ありがとうございます。

(委員長) これで5冊を配布するということになると思いますが、そうではないものについて、例えば券を配布するというご意見もありましたが、今後検討していただけるということによろしいでしょうか。

(事務局) すぐというのは難しいです。今回の選定委員会で選んでいただいた5冊は、委員の皆さんが「読んでほしい」ということで選んでいただいた絵本なので、私たちとしては、このどれかをまずは読んでくださいということです。もし、他の絵本が欲しい場合は、お薦め絵本リストに載せますので、ご自分で買って読んでいただけないかということが、今私たちが考えているところです。確かに貴重なご意見なのですが、システム的にすぐに対応できないということもありますし、まずは、選定委員会で推薦していただいた5冊を読んでもらいたいということで考えております。